

徒然想

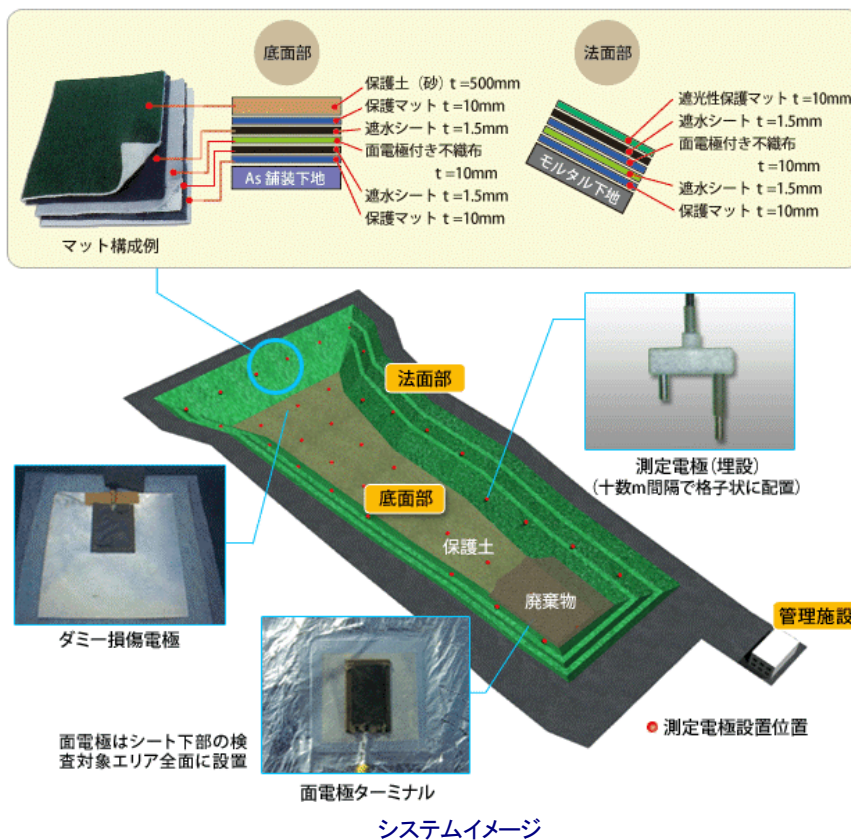
年明けには、弊社でも地元の神社へ初詣に行きました。1年が始まるぞという気持ちも高まります。実は、こうした習慣は江戸時代以前には普及しておらず、各家でその年の「歳神様」をお迎えして、お祀りするのが一般的だったようです。明治時代に入ってから、大きな神社やお寺へお詣りするようになっていったそうです。ちなみに、お年玉の習慣は中世にまでさかのぼるとされています。その頃は、新年を祝って武士は太刀を、町人は扇などを贈ったのだそうですが、もともと年玉の「たま」とは「たましい」のことで、「としだま」とは新年を司る歳神様への供え物が下げられたもののことであると民俗学的には説明されています。いずれにしても、初詣もお年玉も今ではすっかり日本の年明けを代表するキーワードです。新しい技術や手法でも、それがやがてスタンダードになっていくのか、それとも消えていくのか、それは究極的には人々の暮らしにどれだけ関わっているのかに左右されるのかもしれませんが。気持ちも新たに平成の23年目を乗り越えていきたいと思えます。

TECHNICAL TOPICS KRCの技術情報はこちら

遮水シート損傷検知システム「Mr.センサー」(特許第3419621号)

廃棄物最終処分場では、埋立地に降った雨水が廃棄物中を浸透し、浸出水として発生します。この浸出水が周辺環境に影響を与えないよう処分場の底面に遮水工を設置します。遮水工としては主に遮水シートが用いられますが、廃棄物の埋め立て作業による遮水シートの破損が懸念されています。そのため、遮水シートの健全性をモニタリングして、破損を早期に発見し、その位置を特定する技術が必要となっています。

そこで、施工段階と操作時において、遮水シートの接合不良や破損の有無を短時間に行うことのできる管理システム「Mr.センサー」が開発されました。



本システムは、一般及び産業廃棄物最終処分場の遮水シートの下に敷設する保護マット内に、アルミシートを挟んで一体化させた面電極を設置し、その面電極とシート上部の測定電極(埋設、移動)間の抵抗値を測定し、分布図を描くことにより、シートの損傷を検知するシステムです。損傷が確認された場合は、ボーリング孔からアスファルト系・シリコン系などの補修材を注入して補修し、再度検査を行います。施工が簡単で、測定器やデータ解析費用が安いので、トータル的に費用は安価で経済的なシステムです。

システムについては、ミスターセンサー研究会が技術展開、及びサポートを行っており、当社もその一員として活動を行っております。システムの詳細については、研究会ウェブサイトをご覧ください。

★ ミスターセンサー研究会 HP:

<http://www.mrsensor.jp/>

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせは、

電子メール: krc@krcnet.co.jp HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm> で承っております。